

窓

京都新聞 令和2年(2020年)12月16日(水)

助け 求めやすくする工夫

伏見区・小林 琴音(大学生・22)

私は生まれつき体が強い方だ。ところが、先日1人で買い物に出かけた時、急な腹痛を起こした。椅子がある所ではしばらく休んでいた。しかし、何十分たっても腹痛は治らなかつた。そこで

の時、私が座っている椅子の前を何人も人が通り過ぎていった。

私は「こんなにも苦しんでいるのに、なぜ誰も声をかけてくれないのか」と思っていた。しかし、自分に

置き換えた時に、私は声をかけるだろうか。明らかに具合が悪そうなら声をかけるだろうが、そうでない限りためらってしまうと思う。

以前、迷子かもしれない子どもに「大丈夫か」と声をかけるのではなく、「困っているか」と聞く方が子どもが助けを求めやすいという漫画を読んだことがある。こんなふうに少し工夫した聞き方をすることで、助けを求めやすくなるのだと知った。

具合の悪い人だけが助けを求めているわけではない。どんな人でも困っていると感じれば、声をかける勇氣を持てるようになったと思う。

※無断転載不可